

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000523		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	ふれあい〜朝里 1F		
所在地	小樽市新光1丁目2番20号		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172000523-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000523-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに開催しているイベント以外にも、散歩や買い物、畑の収穫などで気軽に外へ出かけられる機会をたくさん作り、閉じこもりがちな生活にならないように努めています。

日常の会話を大切に、その中からそれぞれの思い・願いを聞き取りながら、近所の店に外食へ行ったり街場へ出かけたりしています。利用者様から「楽しかった!」との声を頂き、素敵な笑顔の写真もたくさん残っています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24年 12月 11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、家族や知人が訪れやすい利便性に優れた場所に開設して9年が経過しています。職員は地域密着型としての社会的役割を認識しており、地域の行事には積極的に参加するなど地域との関係性を大切にしています。2ヵ月毎に家族会を開催し表出された意見や提案をホームの運営に活かしています。また、家族へのホームへには、認知症に關してのコラム欄を設けるなどホームの理解に繋げています。座った姿勢で人を搬送できる椅子担架を導入し、日々の関わりや災害時に備えるなど利用者の視点に立った支援が続けられています。職員は、利用者の根底にある思いに添いたいと洞察力を高め、ケアサービスに努めている「ふれあい〜朝里」です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、職員一人一人が印刷した物を持ち歩き、いつでも確認できるようにし、皆で共有できるように努めています。	開設時の理念を踏まえ、地域密着型サービスの意義を含んだ理念を新たに策定しています。職員は機会を捉え理念の確認を行い、ケアサービスに努めています。今後、職員全員で理念についての検討を予定しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事のあるときは気軽に参加して頂けるよう前もって声掛けしています。又、散歩や受診その他外出の際等、日頃顔を合わせると挨拶しています。	地域の方々にはホーム行事の案内をしています。地域の行事への参加や、要請により認知症について講師を務めるなど、ホームへの理解に繋げています。クリスマスツリーを利用者と子供会の児童や地域の方々と一緒に制作しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一度、ふれあい便りを発行し認知症Q&Aのコーナーを設けています。来訪者にも見ていただけるように玄関ホールに掲示しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議の場を設け、消防、薬局、地域包括、取引業者等外部の方にも参加して頂いています。頂いたご意見・ご要望をサービスに活かす様努めています。	メンバーには運営推進会議への参加確認を行い、2ヵ月毎に開催しています。メンバーの拡大にも取り組み、行事報告や避難訓練等が話し合われています。議題に沿った提案や意見が出されていますが、地域の方の参加や議事録の質疑内容記載が十分ではありません。	運営推進会議を開催する意義を理解して頂き、町内会を通じての参加要請や、ホームへの理解に繋がる議事録の整備、議題の工夫による会議の活性化への取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃より連絡を取り合い、協力関係を築いています。	行政とは会議、各種の報告、認定時、実地指導等で情報や意見交換をしています。さらにホームの課題に対して提案や助言を頂き、質の確保に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会を設けその会議で確認しあっています。又、フロアミーティング時に報告する事で全職員に周知するよう努めています。玄関の施錠は夜間のみ行なっています。	マニュアルを整備し、会議やミーティング等で職員全員が身体拘束の防止について話し合い、具体的な行為や弊害への理解を深めています。職員間においても、拘束に当たらないかを確認し合うなど、身体拘束をしないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会が中心となり、虐待に当たる行為や態度、言葉掛けが無いように努めており、日頃より職員同士も互いに注意を払っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ機会を設けています。成年後見制度は実際に利用されている方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から御本人や御家族と面談し、十分な説明をしています。解約時も同様に行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度、運営推進会議並びに家族会を開き様々なご意見・ご要望を頂いています。又、日頃より来訪時等に気軽にお話頂けるよう努め、頂いたご意見は申し送り時やミーティング時に話し合っています。	利用者や家族が、意見や要望を表しやすい雰囲気作りに努め、利用者とは日々の関わりの中で傾聴し、家族からは来訪時や電話等で意向を把握しています。提案を受け、畑に出向くことが困難な利用者には、プランタンの花で気分を味わって頂いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度責任者会議・各フロアミーティングを開き、意見や提案を聞く機会を作っています。	運営法人の事務長が定期的にホームを訪れ、職員の全体像を把握しています。管理者は、日常業務やミーティング時に職員の意見や提案を受け止め運営に活かすなど、職場環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時は休暇支援があります。休憩時間の取り方についても見直し、各シフトの職員がスムーズに休憩に入れるよう工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加する機会を設けています。他にも社員研修の実施やスキルアップ委員会の設置で、職員の質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム連絡協議会に加入しており、相互訪問を実施しています。レポートは他の職員にも周知するようにし、サービス向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か顔を合わせる機会を作り、馴染みの関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に御家族の思いやご要望・ご心配な事を良く聞いて、より良い関係になるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族のご要望を良く聞いて、時には他のサービスを勧める事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理の下ごしらえ、後片付け、裁縫、野菜の収穫等、出来る事を一緒に行ないながら、関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手書きのお手紙にて近況をお知らせしたり、必要に応じて電話で連絡を取り合ったりし共に御本人を支える関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人から要望があった時は、友人・知人の方へ電話を取り次いでいます。又、いつでも気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めています。	利用者との会話や生活歴、家族からの情報で馴染みの人や場との関係を集約しています。友人、知人や檀家参りの住職の来訪を受け入れ、馴染みの美容室や商店、懐かしい場所への訪れは家族と一緒に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席をそれぞれの関係を考え工夫しています。職員は日々それぞれの方が関わり合えるよう、間に入って会話を取り持っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も御家族と会ったときは、近況を伺ったり、相談を受けたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や態度、言動などから御本人の意向や思いを把握するよう努めています。	職員は利用者から発せられた言葉や何気ない表情の意味の把握に努め、利用者の思いに添いたいと洞察力を高めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族から伺い、できるだけ情報を集め、把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしぶりや様子を良く見て把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全入居者様に担当職員がおり、モニタリングをしています。御家族とも話し合いをし、介護計画を作成しています。	利用者や家族の生活に対する意向を把握し、個人の記録や医療関係者の意見を参考に、利用者にとって最適な生活支援になるよう介護計画を立案しています。介護記録で計画の実行を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間個々の記録を残し、全職員が確認しています。気付いた事は、フロア日誌への記載やミーティング時に情報共有し、計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の通院や買い物、訪問理美容以外の馴染みの店の利用など、御家族の協力を仰ぎながら支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月一度、音楽療法士による「うたごえ広場」を開催。年に数回ボランティアの方を招き、踊り等の鑑賞会を設けている他、地域の子供達の訪問を受けゲームなど一緒に行い楽しんで頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の定期的な往診を受けています。また、それ以外の病院への通院も御本人・御家族の希望に応じ、支援しています。	かかりつけ医への受診は家族が対応していますが、困難な場合はホームが支援しています。2週間毎に協力医の往診支援もあり、利用者の健康管理は適切に行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師はいないが協力病院の看護師と必要に応じて連絡を取り、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は出来る限り病院に足を運ぶようにし、都度、病院関係者と情報交換や相談に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階で御本人や御家族の意向を伺い、ホームで出来る事・出来ない事の説明をする機会を設け、全職員で情報共有しています。かかりつけ医とも相談し、皆で支援できるように取り組んでいます。	重篤時におけるホームの指針を説明し、同意書を頂いています。看取りやそれに近い状況も経験しており、家族や医療関係者と情報を共有し、ホームとして出来得る最大限の支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署の救命講習を受講し急変時に対応が出来るようにしています。ホーム内にはAEDが備えられています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し消防署の協力を仰ぎながら、火災と地震を想定した避難訓練を行なっています。また、夜間想定避難訓練も毎月実施しています。	消防署の指導の下、年3回、火災や地震を想定した避難訓練を実施しています。さらに毎月、夜間想定自主訓練を行い、災害時への意識を高めています。ただし今回は、地域の方々の参加が得られず、一時的屋内避難場所の確認や家族への周知は十分ではありませんでした。	地域の方々に災害時での理解を頂いた上で、協力体制の要請や、消防団、近隣の福祉施設との連携を検討していますので、その実行を期待します。また停電を含め、あらゆる災害を想定しての訓練や災害時備蓄品の用意など、更なる災害対策への取り組みに期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ちゃん」付けやあだ名で呼ぶ事は禁止していません。排泄等のプライバシーに関わる事は御本人のみ聞こえる声掛けをするよう、十分に気を配っています。	利用者の尊厳と権利について、勉強会を開催し理解を深めています。職員間においても、否定的な言葉や羞恥心への配慮が十分ではないと感じたときには注意し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の性格や能力に合わせた言葉掛けをするよう気を配り、それぞれが自己決定できるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間帯には決まりがあるが、出来る限り自身のペースで思い思いに過ごしていただけるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容があり、御本人の希望に添って身だしなみやお洒落が出来る様に支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	交代で野菜の皮むき等の下ごしらえや、食器拭き等の後片付けも一緒に行なっています。時には入居者様と職員で献立を考えたり、入居者様のリクエストにも応えています。	食材は週3回利用者と一緒に買い物をし、各ユニットが利用者の希望を取り入れ、その日の献立を決めています。菜園での収穫物や、外食、出前なども楽しみながら利用者とのコミュニケーションを大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた量を盛り付けるようにしています。食事以外にも御本人の希望する飲み物をお出しして水分量の確保に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時には一人一人に声を掛けています。自力で出来ない方には出来ない事を介助しています。			
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するよう努め、日報に記入しています。それを活かしながらトイレで排泄できるように、声掛け・誘導し、支援しています。	日中は職員の支援の下、全員がトイレで排泄しています。最小限の衛生用品を使用していますが、不要になった利用者もいます。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヤクルトや牛乳等、お腹の働きに良いものをお出ししています。ラジオ体操を毎日行なっています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面を考慮して日中の時間帯に入浴をして頂いていますが、タイミングはその方に合わせるように工夫しています。	毎日入浴出来る態勢を整えていますが、同性介助を基本に午後から週2回以上の入浴支援を行っています。介護用品の使用や職員の支援により殆どの利用者が浴槽に入り心地良さを味わっています。		
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動的に過ごして頂くようにしていますが、その時の状況や御本人のご希望に応じて休息していただいています。			
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるようにしており、変更時にはフロー一日誌で周知しています。医師や薬局からも説明を受けています。ホームでの服薬マニュアルも作成しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や能力に合わせて歌や映画、畑の収穫、外出等で楽しみや張り合いがある日々を送れるよう支援しています。御本人の希望で趣味の刺繍や花も飾っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を出来るだけ取り入れながら外出先を決めています。また、御家族の協力にて外泊や外出される方もいます。	利用者の状態や職員のシフト上全ての外出希望に応えることに困難はありますが、散歩や買い物、ドライブを兼ねての行楽地での食事やおやつタイムなど、時には家族の協力を頂きながら外出支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族にも理解していただき、自己管理できる方はお金を所持されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があればその都度、電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った貼り絵や飾りなどを入居者様と一緒に作って飾っています。室温・湿度は時間を決めて記録し、快適に過ごしていただけるよう工夫しています。	空調や採光に配慮された共用空間は、すべてがゆったりとした造りになっています。職員は季節感を大事にし伝統行事の飾り付けや旬の食材、花などで利用者と一緒に四季を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを中心に全員が座れるようにソファを設置し、TVを見たりお話を花を咲かせていらっやいます。また、窓際には一人で外を眺められるように一人掛けのイスを設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた家具や仏壇、思い出の品を居室で使用されています。居室入りの飾り棚にも写真や思い出の品を飾っていただいています。	居室の入口付近に飾りケースが設置され、利用者の趣味の物が飾られています。居室内も生活用品が収納できるクローゼットが備えられ、利用者や家族の個性が活かされた暮らしやすい住まいになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで廊下には手摺が設置されており、安全に移動できるように工夫されています。トイレ・浴室の入り口には分かりやすいように札を取り付けています。		